

保存版

○ 板倉町 防災マップ

自らの命は
自ら守る

自分たちの地域は
自分たちで守る



板倉町イメージキャラクター
いたくらん

目次

町長あいさつ、 令和元年台風第19号 雨量と河川水位	P1
〈避難情報〉	P2
〈板倉町タイムライン (防災行動計画)〉	P3-4
〈避難所・緊急避難場所一覧〉	P5-6
〈板倉町全体図(計画規模)〉	P7-8
〈計画規模浸水想定図①〉北地区	P9-10
〈計画規模浸水想定図②〉西地区	P11-12
〈計画規模浸水想定図③〉東地区	P13-14
〈計画規模浸水想定図④〉南地区 (飯野・大高嶋)	P15-16
〈計画規模浸水想定図⑤〉南地区 (大高嶋・下五箇)	P17-18
〈板倉町全体図(想定最大規模)〉	P19-20
〈広域避難マップ〉	P21-22
〈風水害対策〉	P23-24
〈地震対策〉	P25-26
〈地域での防災対策〉	P27-28
〈避難時の心得〉	P29
〈避難生活・伝言ダイヤル・ 家族の連絡先〉	P30

町長あいさつ

令和元年の台風第19号では、結果的には幸運にもほとんど被害のなかった当町でしたが、70年に一度の規模といえるカスリーン台風以後、初めての避難を指示し、4,000人を超す多くのかたに避難いただいたことから、当然ではありますが課題としていろいろな角度からのご指摘がございました。

町におきましては、町民皆様の第1の願望である安全安心に対し、頂いたご指摘一つ一つを慎重に検証して、新たな「板倉町防災マップ」をここに策定いたしました。

「犠牲者ゼロ」の推進にあたり、特に自助(自らの命は自ら守る)、共助(自分たちの地域は自分たちで守る)につままして、皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



板倉町長 栗原 実

令和元年台風第19号 雨量と河川水位

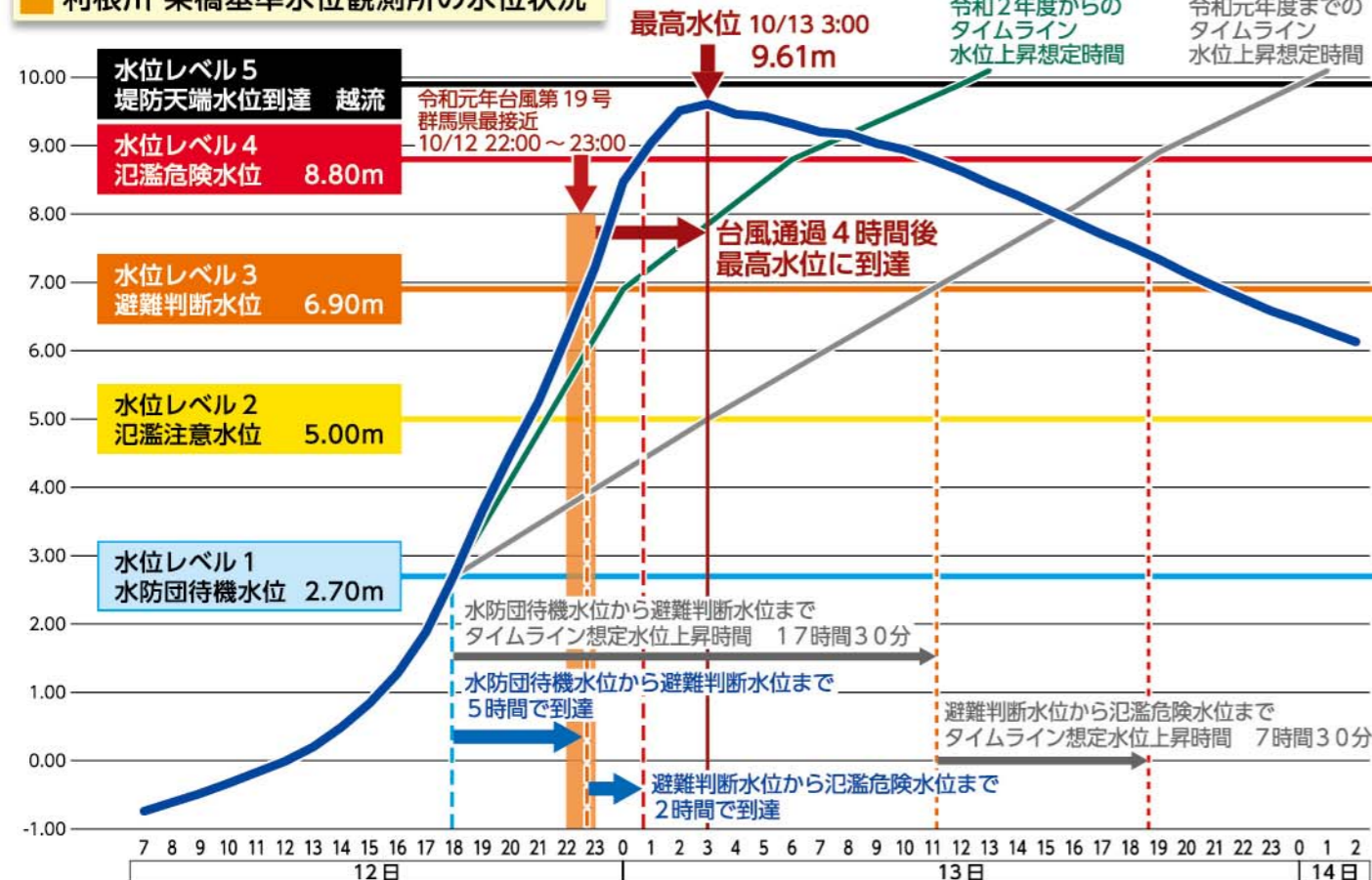
基準水位観測所と流域雨量

利根川・渡良瀬川の流域では、計画規模(100年~200年に1度レベル)で想定している3日間雨量の9割に相当する大雨が、10月12日~13日の2日間で降りました。

河川名	基準水位観測所	想定確率年	計画規模雨量	令和元年台風第19号 10月12日~13日(2日間)	最大24時間雨量
利根川	八斗島	1/200 (200年に1回)	72時間(3日間)336mm	298.7mm	282.4mm
渡良瀬川	高津戸	1/100 (100年に1回)	72時間(3日間)434mm	370.2mm	354.1mm

計画規模雨量:河川整備の目標とする降雨のこと。河川の流域の大きさや災害の発生状況などを考慮して定められています。

利根川 栗橋基準水位観測所の水位状況



大雨の大部分が24時間に集中したため、河川はタイムライン(防災行動計画)で想定していた時間よりも、短時間で急激に水位が上昇しました。利根川の栗橋基準水位観測所では、カスリーン台風災害(1947年)における最高水位9.17m^{※1}を超え、9.61m(標高19.81m)を観測しました。

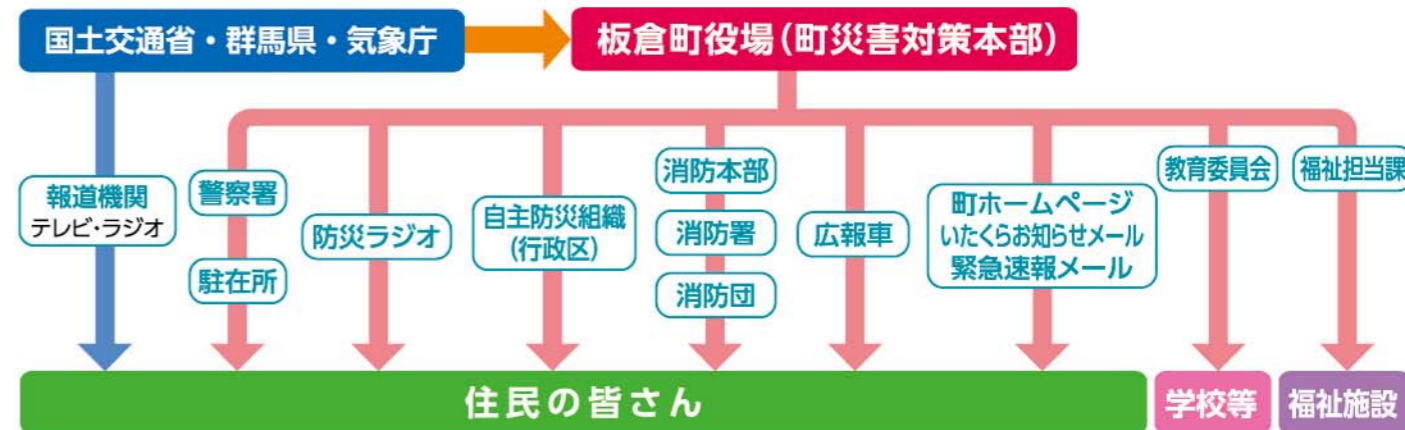
※1 カスリーン台風災害当時、栗橋観測所の計画高は7.55mであり、最高水位を記録した直後に上流地点で堤防が決壊しました。現在の堤防はより高く、より強化されています。

※ 令和元年台風第19号の出水を踏まえ、令和2年から基準水位が見直されました。タイムラインの想定時間も見直しとなっています。

避難情報

避難情報の伝達経路

災害の情報は次の伝達経路で皆さんに伝達されます。テレビ、ラジオ、インターネットの情報なども積極的に活用し、情報収集・避難活動に役立てましょう。



避難情報等

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生情報 (町が発令) 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急) (町が発令) 地域の状況に応じて、緊急または重ねて避難を促す場合等に発令
警戒レベル3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人(ご高齢のかた、障がいのあるかた、乳幼児等)とその支援者は避難を開始しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。広域避難できる人は、町外の避難先等に広域避難を開始しましょう。	避難準備・高齢者等避難開始 (町が発令)

災害対策本部体制

災害警戒本部体制

警戒レベル2	避難に備え、防災マップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。広域避難を検討し、避難先の親戚や知人へ連絡しましょう。	大雨注意報 洪水注意報等 (気象庁が発表)
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報(警報級の可能性) (気象庁が発表)

板倉町タイムライン(防災行動計画)

避難勧告発令等に着目したタイムライン(利根川・渡良瀬川・谷田川)

「タイムライン」とは台風の接近によって河川の水位が上昇するときに、標準的な防災行動・避難行動を時系列的に整理し取りまとめて、ひとりの犠牲者もださない「犠牲者ゼロ」をめざす計画です。

雨量によって、前橋地方気象台より「注意報」「警報」が発表されます。その後の雨の降る量や河川の水位によっては、板倉町から避難準備・避難勧告等の発令がありますので、ご注意ください。

自分や家族が
どう行動するか
記入してみよう!



※1 気象・河川情報に関する発表等のタイミングについては、地域・事象によって異なります。
 ※2 河川の水位は、観測所ごとに定められた基準面(水位標のゼロ点高)からの水面の高さで表示されます。水位標のゼロ点高に水位を足したものが水面の標高になります。

避難所・緊急避難場所一覧

洪水時の避難場所と避難行動のタイミング

河川が氾濫して自宅が浸水するおそれのあるときは

- ① 自主的広域避難 早い段階(警戒レベル2)で町外の浸水しない親戚・友人宅へ広域避難
- ② 広域避難 早い段階(警戒レベル3)で広域避難所や親戚・友人宅などの浸水しない区域へ広域避難
- ③ 水平避難 浸水がはじまる前に町内の浸水しない親戚・友人宅、高台や洪水時緊急避難場所へ避難
- ④ 垂直避難 浸水がはじまり移動が難しい場合は家の2階など少しでも高いところへ避難

自主避難所 台風の接近等に伴い、避難情報が発令される前に、自主的に避難を希望されるかたのために一時的に避難する施設です。状況により施設を選定して開設しますので、**開設する際に防災ラジオ等でお知らせします**。原則、飲料水・食料・毛布などは、避難者が各自で準備してください。施設によっては、「[警戒レベル3] 避難準備・高齢者等避難開始」等が発令されたときに移動をお願いすることがあります。

広域避難所 災害時における相互応援協定等に基づき、周辺市町から提供される緊急的に避難する施設等です。状況により開設しない場合や施設が変更される場合もあります。原則、飲料水・食料・毛布などは、避難者が各自で準備してください。

洪水時緊急避難場所 (想定最大規模レベル)

河川が氾濫するおそれがあるとき（[警戒レベル3] 避難準備・高齢者等避難開始 発令時など）に、浸水の危険から命を守るために緊急的に避難する高台や施設等です。状況により開設しない場所もあります。原則、飲料水・食料・毛布などは、避難者が各自で準備してください。

種別	No.	施設・場所名	所在地	洪水時使用可能場所	収容想定人数	標高	想定最大浸水深	安全レベル
①	1	旧北小学校	大字西岡 395	1階・2階・3階	1,190人	22.8m	0.0m	★★★
②	2	北保育園	大字西岡 331	1階	220人	23.0m	0.0m	★★★
③	3	北部公民館	大字西岡 485-2	1階・2階	210人	23.1m	0.0m	★★★
④	4	JA邑楽館林板倉北支所	大字西岡 417	1階・2階	60人	23.4m	0.0m	★★★
⑤	5	東小学校	大字海老瀬 4822	1階・2階・3階	970人	21.9m	0.0m	★★★
⑥	6	わたらせ自然館	大字海老瀬 4663-1	1階	120人	24.0m	0.0m	★★★
⑦	7	東洋大学板倉キャンパス	泉野 1-1-1	3階	1,200人	15.0m	6.3m	★
⑧	8	旧南小学校	大字大高嶋 1696	3階	320人	16.5m	5.4m	★
⑨	9	板倉高等学校	大字板倉 2406-2	2階・3階・4階	1,090人	18.6m	2.7m	★★
⑩	10	板倉中学校	大字板倉 2770	3階	400人	15.8m	5.5m	★★
⑪	11	西小学校	大字岩田 971	2階・3階	930人	18.6m	2.7m	★★
⑫	12	JA邑楽館林板倉西支所	大字岩田 1003	2階	120人	17.6m	3.7m	★★
⑬	13	合の川水防センター※1	大字大高嶋地先	1階の一部	100人	24.2m	0.0m	★★★
⑭	14	下五箇地区洪水避難タワー※2	大字下五箇 213-3	屋外	100人	23.6m※3	0.0m	★★★
⑮	15	飯野地区洪水避難地※2	大字飯野地先	屋外	600人	26.3m	0.0m	★★★
⑯	16	アゼリアモール(屋上駐車場)	館林市楠町 3648-1	屋上	600人	18.2m	3.1m	★★
⑰	17	道の駅かぞわたらせ	加須市小野袋 1737	屋外	50人	23.0m	0.0m	★★★

※1 堤防の異常が見えたり水害が発生した場合、合の川水防センターは水防活動や復旧のため多数の人員や車両が使用しますので、状況により避難者は別の施設へ移動していただくことがあります。
 ※2 下五箇地区洪水避難タワー及び飯野地区洪水避難地は、避難が遅れてほかに水平避難できない場合の緊急避難場所です。
 ※3 下五箇地区洪水避難タワーの標高は、避難場所(避難ステージ)の高さを示しています。

洪水時緊急福祉避難場所 (避難行動要支援者・福祉施設入所者 優先避難場所)

河川が氾濫するおそれがあるとき、高齢者や障がいなどがあり避難行動に手助けが必要なかたが、浸水の危険から命を守るために緊急的に避難する施設です。

種別	No.	施設・場所名	所在地	洪水時使用可能場所	収容想定人数	標高	想定最大浸水深	安全レベル
⑱	18	板倉町役場※4	大字板倉2682-1	3階	140人	18.6m	2.7m	★★
⑲	19	中央公民館	大字板倉2698	3階	120人	14.1m	7.2m	★★

※4 水害が発生した場合、役場は災害復旧のため多数の人員が執務しますので、状況により避難者は別の施設へ移動していただくことがあります。



指定緊急避難場所・指定避難所

洪水時緊急避難場所とは別に、地震等の避難場所として以下の指定緊急避難場所・指定避難所を指定しています。

【指定緊急避難場所】

災害の危険から緊急的に避難するための場所や施設等です。身近な施設でとりあえずの安全を確保し、状況を確認できる場所を指定しています。

【指定避難所】

災害によって自宅に戻れなくなったかたが一定期間避難生活をするための施設です。指定緊急避難場所の中から滞在が可能な施設を指定しています。

No.	施設・場所名	所在地	標高	指定種別
1	東部公民館	朝日野 1-26-1	15.3m	指定緊急避難場所 指定避難所
2	南部公民館	大字大高嶋 1744-1	15.8m	指定緊急避難場所 指定避難所
3	板倉保育園	大字岩田 991	18.6m	指定緊急避難場所
4	児童館	大字板倉 4208-2	14.9m	指定緊急避難場所
5	板倉海洋センター	大字岩田 1062	15.4m	指定緊急避難場所 指定避難所
6	まきば幼稚園	大字粉谷 1344	17.5m	指定緊急避難場所
7	渡良瀬グラウンド	大字海老瀬地先	14.3m	指定緊急避難場所
8	ふれあい公園	朝日野 3-6	14.6m	指定緊急避難場所
9	いずみの公園	泉野 2-31-5	14.6m	指定緊急避難場所
10	天神池公園	大字大高嶋 1849	15.6m	指定緊急避難場所
11	谷田川多目的グラウンド	大字飯野地先	14.9m	指定緊急避難場所
12	板倉中央公園	大字板倉 2742-43	13.8m	指定緊急避難場所
13	大蔵公園	大字大蔵 16	14.2m	指定緊急避難場所
14	大林児童公園	大字板倉 4216-4	14.6m	指定緊急避難場所
15	大林南児童公園	大字板倉 4208-3	15.3m	指定緊急避難場所

福祉避難所

高齢者、障がいのあるかた、乳幼児や妊産婦など配慮を要するかた(要配慮者)の避難所です。一般向けの避難所では生活に支障が生ずるかたが滞在する二次避難所として指定しています。通常は、災害発生当初から利用することはできません。

No.	施設・場所名	所在地	標高	災害種別
1	保健センター	大字岩田甲 1056	15.6m	地震時のみ
2	総合老人福祉センター	大字板倉 3411-1417	14.7m	地震時のみ
3	地域活動支援センター	大字板倉 3411-1410	14.7m	地震時のみ
4	板倉町デイサービスセンター	大字板倉 3411-1417	14.7m	地震時のみ
5	小規模多機能型居宅介護事業所えがお	大字板倉 3411-1417	14.7m	地震時のみ
6	特別養護老人ホームミモザ荘	大字細谷 217	14.9m	地震時のみ
7	ケアハウスヒマワリ	大字細谷 202	14.9m	地震時のみ
8	グループホームりんどう	大字細谷 202	14.9m	地震時のみ
9	中央公民館※5	大字板倉 2698	14.1m	洪水・地震

※5 水害が発生した場合、中央公民館は洪水時緊急福祉避難場所から福祉避難所に移行します。

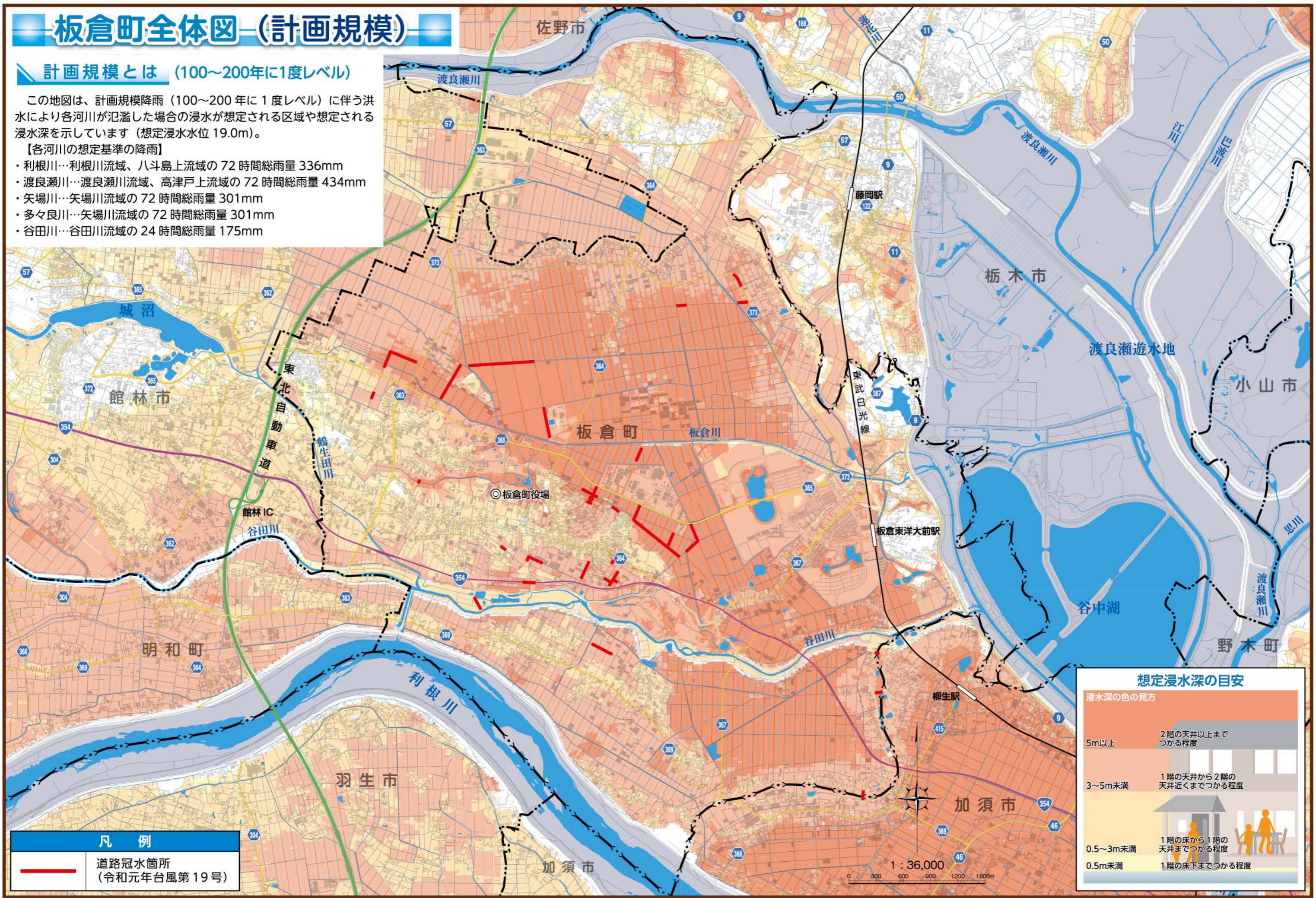
板倉町全体図（計画規模）

計画規模とは（100～200年に1度レベル）

この地図は、計画規模降雨（100～200年に1度レベル）に伴う洪水により各河川が氾濫した場合の浸水が想定される区域や想定される浸水深を示しています（想定浸水水位 19.0m）。

【各河川の想定基準の降雨】

- ・利根川…利根川流域、八斗島上流域の72時間総雨量 336mm
- ・渡良瀬川…渡良瀬川流域、高津戸上流域の72時間総雨量 434mm
- ・矢場川…矢場川流域の72時間総雨量 301mm
- ・多々良川…矢場川流域の72時間総雨量 301mm
- ・谷田川…谷田川流域の24時間総雨量 175mm



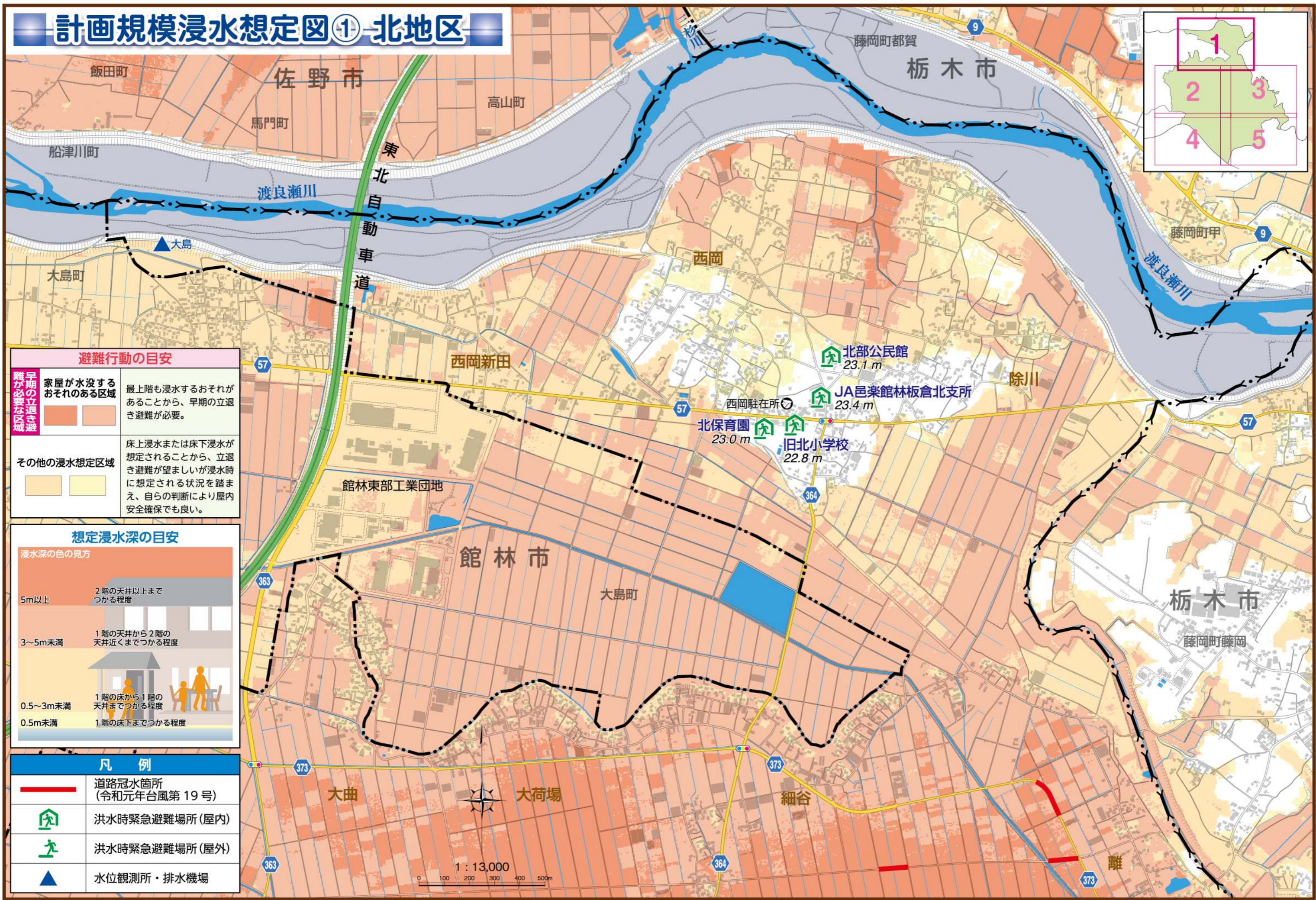
想定浸水深の目安

浸水深の色の見方	浸水深の目安
5m以上	2階の天井以上までつかる程度
3～5m未満	1階の天井から2階の天井近くまでつかる程度
0.5～3m未満	1階の床から1階の天井までつかる程度
0.5m未満	1階の床下までつかる程度

凡例

道路冠水箇所
(令和元年台風第19号)

計画規模浸水想定図①北地区



避難行動の目安

早期の立退き避難が必要な区域 家屋が水没するおそれのある区域	最上階も浸水するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。
	床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいが浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断により屋内安全確保でも良い。
その他の浸水想定区域	

想定浸水深の目安

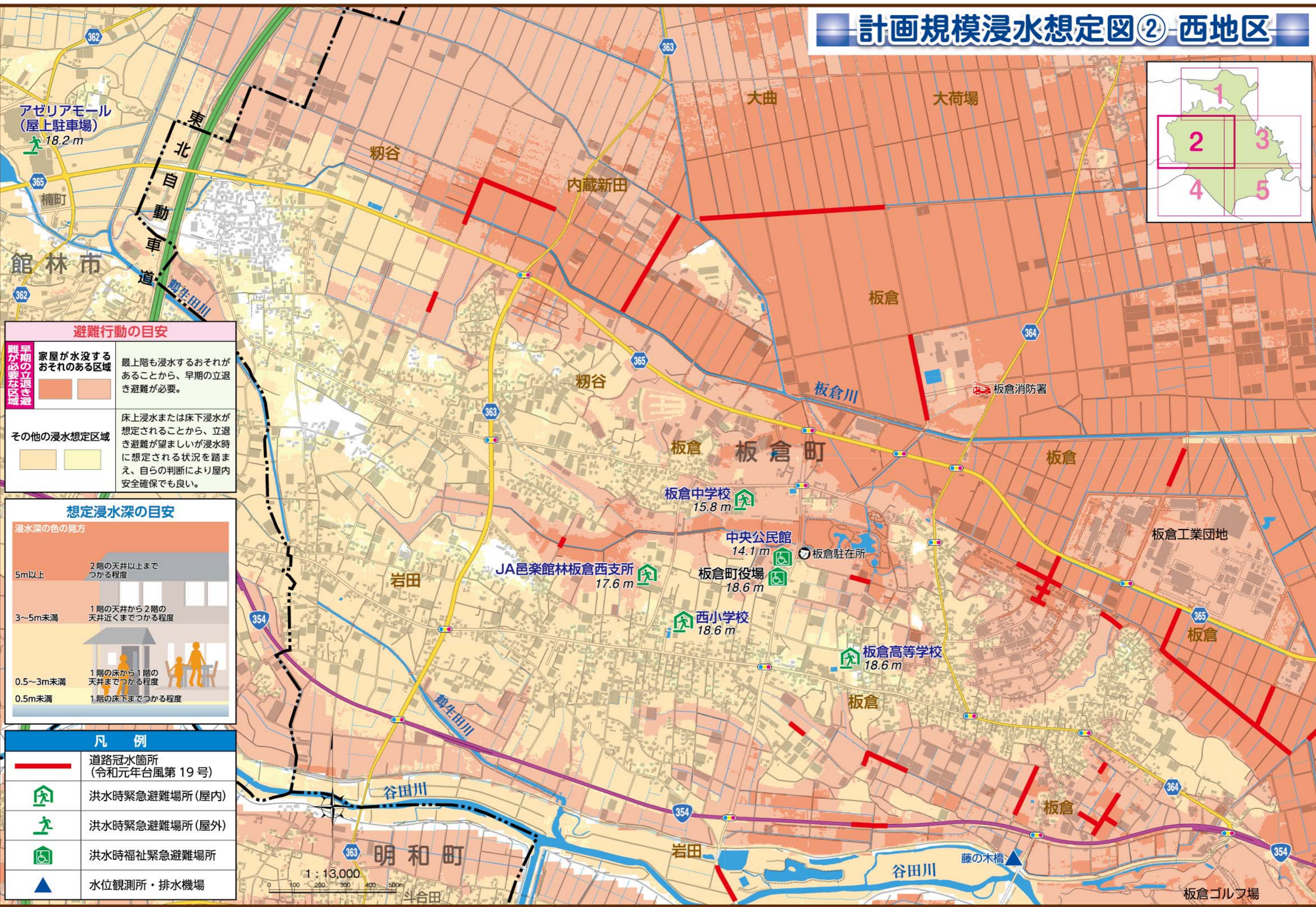
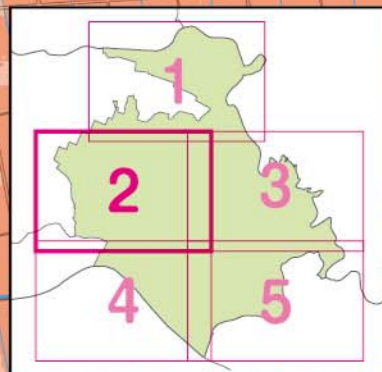
浸水深の色の見方	
5m以上	2階の天井以上までつかる程度
3~5m未満	1階の天井から2階の天井近くまでつかる程度
0.5~3m未満	1階の床から1階の天井までつかる程度
0.5m未満	1階の床下までつかる程度

凡例

	道路冠水箇所 (令和元年台風第19号)
	洪水時緊急避難場所(屋内)
	洪水時緊急避難場所(屋外)
	水位観測所・排水機場

1 : 13,000
0 100 200 300 400 500m

計画規模浸水想定図② 西地区



避難行動の目安

早期の立退き避難が必要な区域	家屋が水没するおそれのある区域	最上階も浸水するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。
その他の浸水想定区域		床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいが浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断により屋内安全確保でも良い。

想定浸水深の目安

浸水深の色の見方

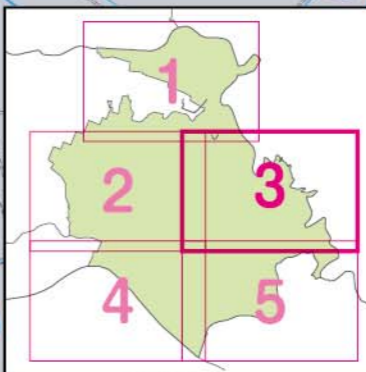
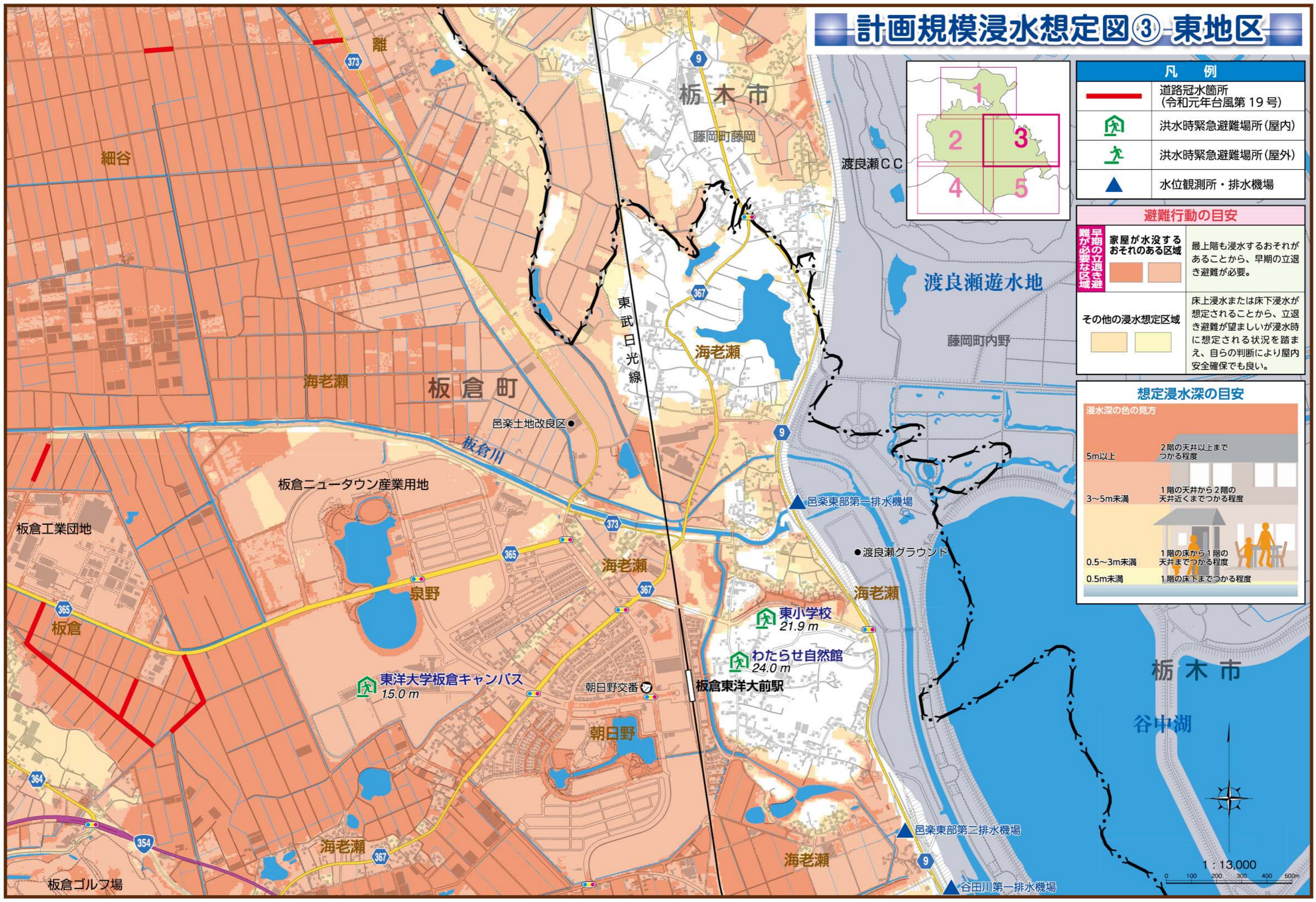
5m以上	2階の天井以上までつかる程度
3~5m未満	1階の天井から2階の天井近くまでつかる程度
0.5~3m未満	1階の床から1階の天井までつかる程度
0.5m未満	1階の床下までつかる程度

凡例

	道路冠水箇所 (令和元年台風第19号)
	洪水時緊急避難場所(屋内)
	洪水時緊急避難場所(屋外)
	洪水時福祉緊急避難場所
	水位観測所・排水機場

1 : 13,000
0 100 200 300 400 500m

計画規模浸水想定図③ 東地区

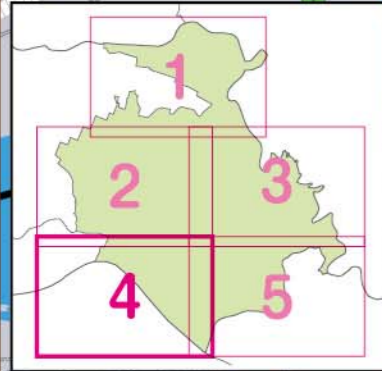
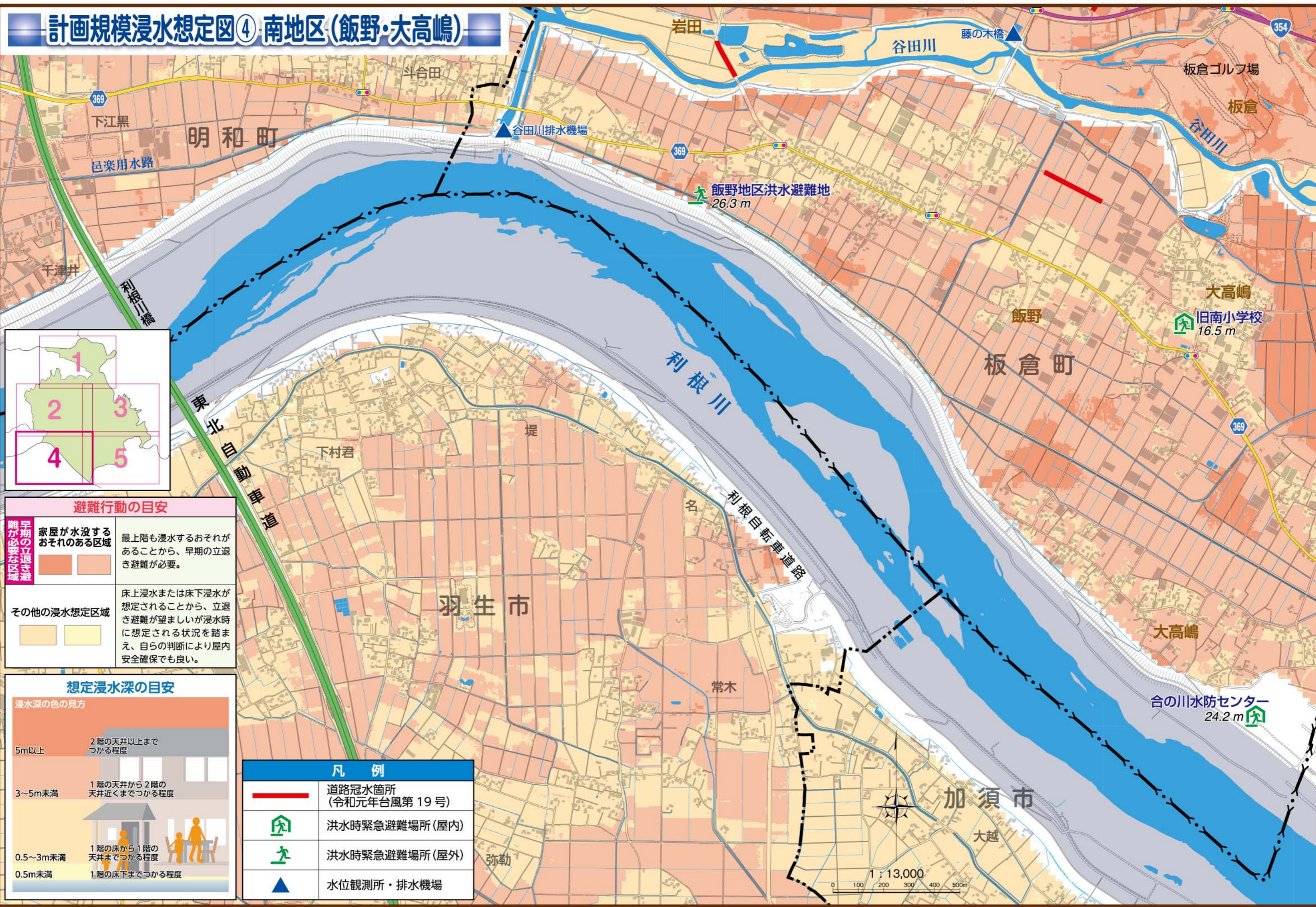


凡例	
	道路冠水箇所 (令和元年台風第19号)
	洪水時緊急避難場所(屋内)
	洪水時緊急避難場所(屋外)
	水位観測所・排水機場

避難行動の目安	
<p>早期の立退き避難が必要な区域</p>	<p>家屋が水没するおそれのある区域</p> <p>最上階も浸水するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。</p>
<p>その他の浸水想定区域</p>	<p>床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいが浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断により屋内安全確保でも良い。</p>

想定浸水深の目安	
<p>浸水深の色の見方</p> <p>5m以上</p>	<p>2階の天井以上まで つかる程度</p>
<p>3~5m未満</p>	<p>1階の天井から2階の 天井近くまでつかる程度</p>
<p>0.5~3m未満</p>	<p>1階の床から1階の 天井までつかる程度</p>
<p>0.5m未満</p>	<p>1階の床下までつかる程度</p>

計画規模浸水想定図④ 南地区(飯野・大高嶋)



避難行動の目安

<p>早期の立退き避難が必要な区域</p> <p>家屋が水没するおそれのある区域</p>	<p>最上階も浸水するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。</p>
<p>その他の浸水想定区域</p>	<p>床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいが浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断により屋内安全確保でも良い。</p>

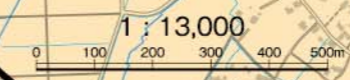
想定浸水深の目安

浸水深の色の見方

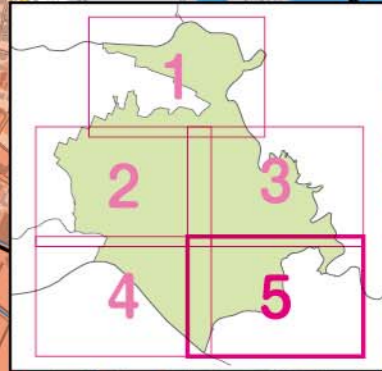
5m以上	2階の天井以上までつかる程度
3~5m未満	1階の天井から2階の天井近くまでつかる程度
0.5~3m未満	1階の床から1階の天井までつかる程度
0.5m未満	1階の床下までつかる程度

凡例

	道路冠水箇所 (令和元年台風第19号)
	洪水時緊急避難場所(屋内)
	洪水時緊急避難場所(屋外)
	水位観測所・排水機場



計画規模浸水想定図⑤ 南地区(大高嶋・下五箇)



避難行動の目安	
<p>早期の立退き避難が必要な区域</p> <p>家屋が水没するおそれのある区域</p>	<p>最上階も浸水するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。</p>
<p>その他の浸水想定区域</p>	<p>床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいが浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断により屋内安全確保でも良い。</p>

想定浸水深の目安	
<p>5m以上</p>	<p>2階の天井以上までつかる程度</p>
<p>3~5m未満</p>	<p>1階の天井から2階の天井近くまでつかる程度</p>
<p>0.5~3m未満</p>	<p>1階の床から1階の天井までつかる程度</p>
<p>0.5m未満</p>	<p>1階の床下までつかる程度</p>

凡例	
	道路冠水箇所 (令和元年台風第19号)
	洪水時緊急避難場所(屋内)
	洪水時緊急避難場所(屋外)
	水位観測所・排水機場



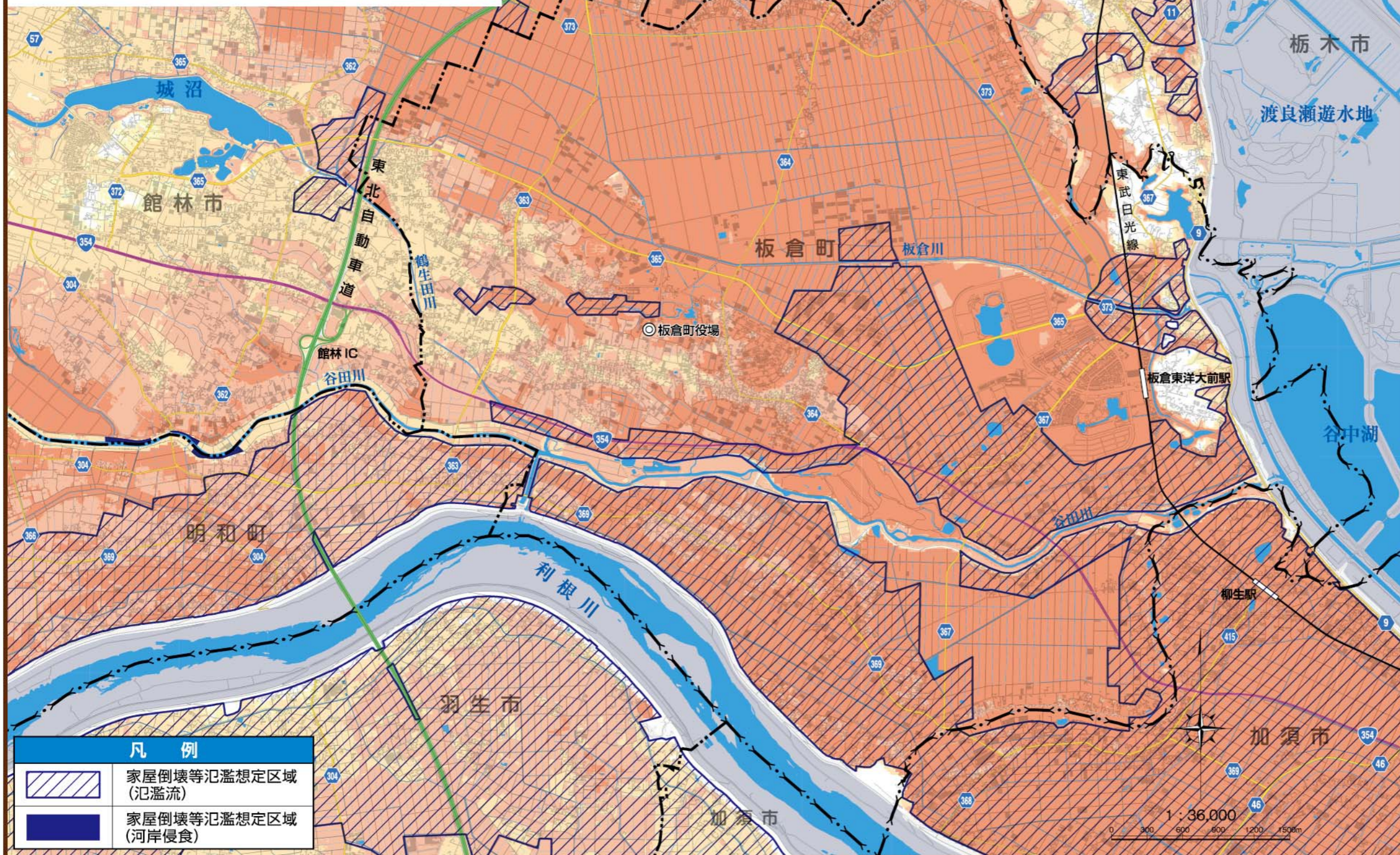
板倉町全体図（想定最大規模）

想定最大規模とは（1000年に1度レベル）

この地図は、想定最大規模降雨（1000年に1度レベル）に伴う洪水により各河川が氾濫した場合の浸水が想定される区域や想定される浸水深を示しています（想定浸水水位 21.3m）。

【各河川の想定基準の降雨】

- ・利根川…利根川流域、八斗島上流域の72時間総雨量 491mm
- ・渡良瀬川…渡良瀬川流域、高津戸上流域の72時間総雨量 812mm
- ・矢場川…矢場川流域の72時間総雨量 944mm
- ・多々良川…矢場川流域の72時間総雨量 944mm
- ・谷田川…谷田川流域の24時間総雨量 664mm



避難行動の目安

早期の立退き避難が必要な区域	家屋倒壊等氾濫想定区域	氾濫流	木造家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流が発生するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。
	家屋倒壊等氾濫想定区域	河岸侵食	家屋が倒壊するような河岸侵食の発生するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。
	家屋が水没するおそれのある区域		最上階も浸水するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。
	その他の浸水想定区域		床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいが浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断により屋内安全確保でも良い。

想定浸水深の目安

浸水深の色の見方

5m以上	2階の天井以上までつかる程度
3~5m未満	1階の天井から2階の天井近くまでつかる程度
0.5~3m未満	1階の床から1階の天井までつかる程度
0.5m未満	1階の床下までつかる程度

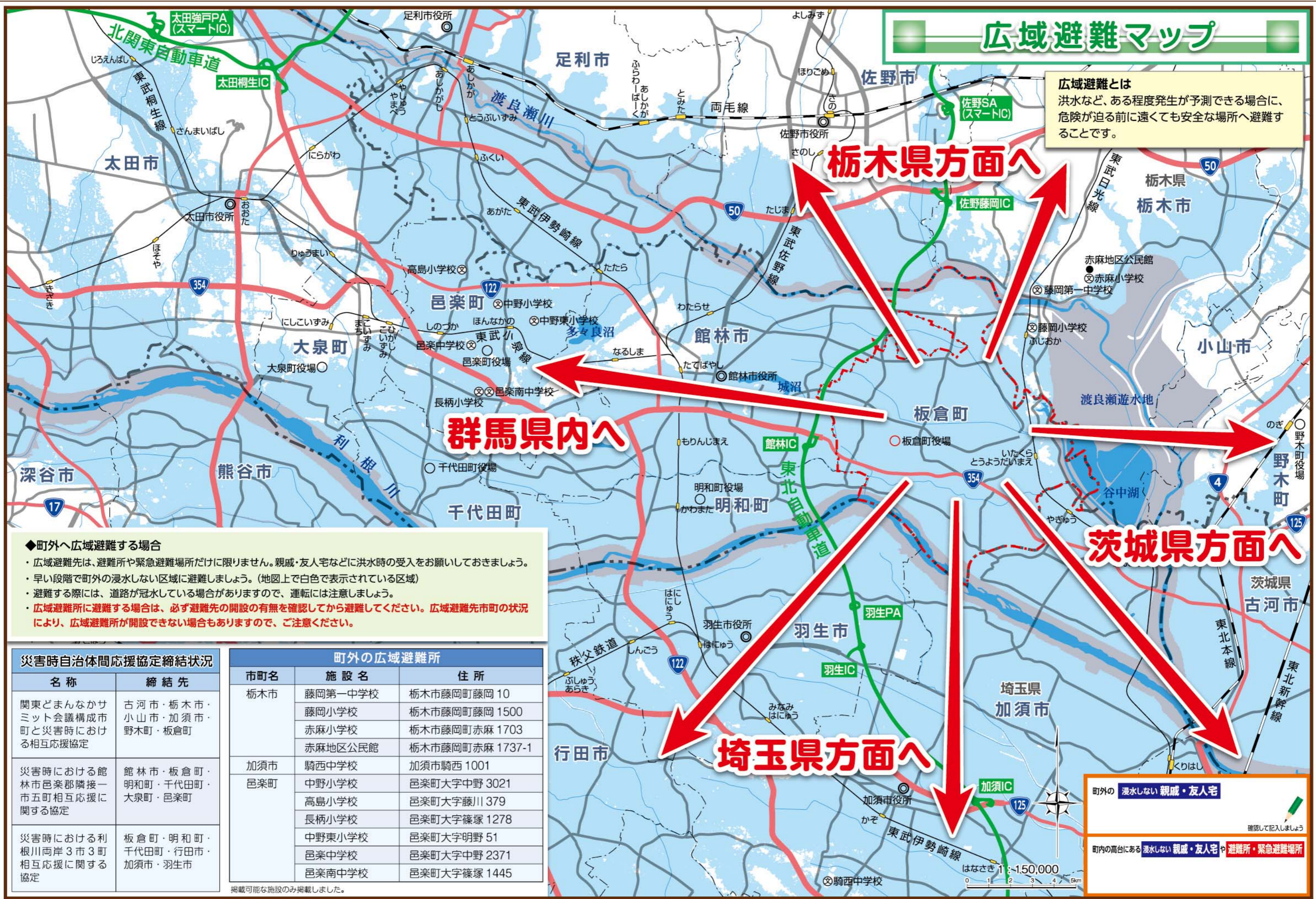


凡例

	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)

広域避難マップ

広域避難とは
洪水など、ある程度発生が予測できる場合に、
危険が迫る前に速くても安全な場所へ避難す
ることです。



◆町外へ広域避難する場合

- ・広域避難先は、避難所や緊急避難場所だけに限りません。親戚・友人宅などに洪水時の受入をお願いしておきましょう。
- ・早い段階で町外の浸水しない区域に避難しましょう。(地図上で白色で表示されている区域)
- ・避難する際には、道路が冠水している場合がありますので、運転には注意しましょう。
- ・広域避難所に避難する場合は、必ず避難先の開設の有無を確認してから避難してください。広域避難先市町の状況により、広域避難所が開設できない場合もありますので、ご注意ください。

災害時自治体間応援協定締結状況

名称	締結先
関東どまんなかサミット会議構成市町と災害時における相互応援協定	古河市・栃木市・小山市・加須市・野木町・板倉町
災害時における館林市邑楽郡隣接一市五町相互応援に関する協定	館林市・板倉町・明和町・千代田町・大泉町・邑楽町
災害時における利根川両岸3市3町相互応援に関する協定	板倉町・明和町・千代田町・行田市・加須市・羽生市

町外の広域避難所

市町名	施設名	住所
栃木市	藤岡第一中学校	栃木市藤岡町藤岡 10
	藤岡小学校	栃木市藤岡町藤岡 1500
	赤麻小学校	栃木市藤岡町赤麻 1703
	赤麻地区公民館	栃木市藤岡町赤麻 1737-1
加須市	騎西中学校	加須市騎西 1001
邑楽町	中野小学校	邑楽町大字中野 3021
	高島小学校	邑楽町大字藤川 379
	長柄小学校	邑楽町大字篠塚 1278
	中野東小学校	邑楽町大字明野 51
	邑楽中学校	邑楽町大字中野 2371
	邑楽南中学校	邑楽町大字篠塚 1445

掲載可能な施設のみ掲載しました。

町外の 浸水しない 親戚・友人宅

町内の高台にある 浸水しない 親戚・友人宅や 避難所・緊急避難場所

風水害対策

注意報・警報の発表基準 (大雨)

種類	発表の時期	発表の基準
大雨注意報	大雨によって、災害が起こるおそれがある場合。	※1 表面雨量指数基準：9 ※2 土壌雨量指数基準：76
大雨警報	大雨によって、重大な災害が起こるおそれがある場合。	表面雨量指数基準：16 土壌雨量指数基準：-
※3 記録的短時間大雨情報	1時間雨量 100mm	
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合。	

※上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発令されます。

※1 表面雨量指数とは、短時間強雨による浸水害の危険性を示す指標で、降った雨が地中にしみ込まずに、地表面にどれだけ溜まっているかを指数化したものです。

※2 土壌雨量指数基準とは、降雨による土砂災害発生の危険性を示す指標で、土壌中に貯まっている雨水の量を示す指数のことです。

※3 大雨警報発表時に、現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために発表するものです。

注意報・警報の発表基準 (強風)

種類	発表の時期
強風注意報	平均風速が13m/sと予想される場合。
暴風警報	平均風速が18m/sと予想される場合。

注意報・警報の発表基準 (洪水)

種類	発表の時期	発表の基準
洪水注意報	河川の増水によって、災害が起こるおそれがある場合。	※4 流域雨量指数基準：谷田川流域=13.7、板倉川流域=2.9、鶴生田川流域=6.4 指定河川洪水予報による基準：利根川上流部[八斗島・栗橋]、渡良瀬川下流部[足利]
洪水警報	河川の増水によって、重大な災害が起こるおそれがある場合。	流域雨量指数基準：谷田川流域=17.2、板倉川流域=3.7、鶴生田川流域=8 指定河川洪水予報による基準：渡良瀬川上流部[高津戸]、利根川上流部[八斗島・栗橋]、渡良瀬川下流部[足利・古河]

※4 流域雨量指数基準とは河川の流域に降った雨水が、どれだけ下流の地域に影響を与えるかを、これまでに降った雨(解析雨量)と今後数時間に降ると予想される雨(降水短時間予報)から、流出過程と流下過程の計算によって指数化したものです。

雨の降り方と注意報・警報の関係(目安)

降っている雨を観察することで、おおよその雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

発表目安	記録的短時間大雨情報				
	大雨注意報		大雨警報		
1時間雨量(mm)	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
解説	ザーザーと降る雨。地面一面に水溜まりができる。雨が長引く場合には、注意が必要。	どしゃ降り。傘をさしても濡れてしまうほどの雨。下水があふれ、また崖崩れの心配もある。	バケツをひっくり返したように降る雨。崖崩れもおこりやすく、道路規制も行われる。避難の準備を。	滝のように降り、ゴーゴーと降り続く雨。あたりが水しぶきで白っぽくなる。水害の発生の可能性は大。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。大規模な災害の発生のおそれが強く、厳重な警戒が必要。

台風の大きさと強さ (気象庁による)

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、大きな被害をもたらします。台風の接近が予想されるときは、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上~800km未満	強い	33m/s以上~44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上~54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

集中豪雨

集中豪雨は、大量の雨が数時間にわたり集中して強く降り、雨量が数10mm~数100mmに達する「局地的な大雨」のことです。狭い地域で突発的に降るため、警報・注意報の発表前や短時間のうちに河川の氾濫、土砂災害、家屋浸水等の災害を引き起こす場合があります。

雨風が強まってきたときは

大雨や台風などが接近してきた場合、おおまかに以下のような流れの対応を考えましょう。無理をせず、早めの避難が重要です。

避難に関する情報を確認する

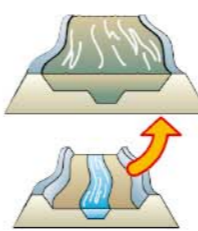


- 地下室にいる場合は、早く地上へ移動
- 家庭内からの排水を控える(風呂水の排水、洗濯など)
- 家の外の確認
飛ばされそうなもの、流されそうなものをしまう など
- 家の中の確認
窓ガラスの破損に備え、内側からテープをはる。カーテンをしめる など
- 大事な家財などを高い場所(2階など)に移動させる
- 簡単な浸水対策
水のうや土のうで入口を囲む。タオルで窓のすき間をふさぐ など
- 家族の居場所を確認する
離れていたら安否を確認。避難を事前に連絡
- 避難の準備をする
持出品の用意。避難先、避難路の確認

注意

立体交差点(アンダーパス)
道路や鉄道の下を通るアンダーパスには水がたまり、通行ができなくなります。

低いところ(窪地)
アンダーパスの他、周辺より低くなっている道路も水がたまり、通行ができなくなります。

洪水災害とは

洪水	氾濫	水害
 <p>洪水とは、雨などにより川の水量が普段より著しく増えた状態をいいます。河原へ行くと広い敷地のわりに中心部しか水が流れていません。これが通常の姿です。</p> <p>ところが、川幅いっぱいにおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。</p>	 <p>氾濫とは、雨などにより、住宅地や農地などに水があふれることをいいます。川から水があふれることを「外水氾濫」といいます。川から水があふれるのではなく、住宅地や農地に降った雨がそのままたまってあふれることを「内水氾濫」といいます。</p>	 <p>水害とは、水によって起こされる災害のことです。外水氾濫も内水氾濫も水害と呼ばれます。ただし、海水による水害の場合は、高潮災害、津波災害といった呼び方をされます。</p>

地震対策

地震発生時の行動(時間別)

地震がおきた時、あわててむやみに行動するとかえって危険です。緊急地震速報を活用したり、報道等で正しい情報を入手して、冷静に状況を判断して的確な行動をしましょう。



地震発生

激しい揺れは1~2分! 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する。
 ●**落ち着いて! 身の安全を守るための行動を!**
 ●あわてて外へ飛び出したりせず、冷静に行動を!

1~2分

揺れがおさまったら
 ●**火元を確認** 火災が発生してもあわてずに初期消火。
 ●**家族の安全を確認** 家族や火元の安全確認が済んだら次の行動へ。
 ●**靴を履く** 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく。
 ●**非常用持ち出し品** 危険予想地域では、速やかに安全な場所に避難。



3分

●**みんなの無事を確認** 家族の次に隣近所は? 要配慮者の安全確保、隣近所で助け合う。
 ●**近くに火は?** 近所に火の手は? 消火活動はみんなに呼びかけ、協力を!
 ●**余震に注意!** 大地震の後には余震が発生! 気を抜かずに行動を! 傾いた家などには入らない! 近寄らない!



5分

●**ラジオなどをつけて正しい情報を!** 町・自治体の情報を確認! デマにまどわされない! 最新の正確な情報を入手。
 ●**電話はなるべく使わない!** 電話の使用は緊急連絡を優先し、極力避ける。安否情報は「災害用伝言ダイヤル171」を利用。



~10分

●**子どもを学校等へ迎えに!** ●**ガスの元栓を閉める!**
 ●**ブレーカーを切る!** ●**行き先メモを玄関に!**
 ●**ブロック塀の倒壊や自販機の転倒、看板やガラスの落下に注意!** 余震などで傾いたブロック塀や自販機が倒れることもあるため、注意!

~数時間

●**避難** 避難するときは、指定緊急避難場所へ避難! 避難時は車は極力使用しない! 被害が拡大長期化する場合は災害対策本部の開設する指定避難所へ避難! 自宅を離れるときは、安否、行き先などのメモを玄関に用意!



~3日

●**生活必需品は備蓄で!** 発災後数日は物資の援助は期待できない。しばらくは非常用持ち出し品や備蓄食糧で!
 ●**壊れた家に入るのは危険!** 壊れた家に入るのは非常に危険です。二次災害防止に努めよう!

屋内にいた場合

自宅にいるとき

- 頭を保護し丈夫な机の下などに身を隠す。家具の転倒や落下物には十分に注意する。
- 揺れがおさまったら、あわてずにガス器具などの火を消す。避難時は、ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを落とす。
- 揺れでドアが開かなくなることもある。玄関、部屋のドア、窓などを開けて避難口を確保する。
- あわてて外に飛び出さない。外ではガラスや瓦などが落ちてくる可能性がある。冷静に状況を判断する。

人が大勢いる施設では

- あわてて出口に走り出さないで、係員の指示に従って落ちついて行動します。

エレベーターの中では

- ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階ですぐに降りる。停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け外部に助けを求めます。

屋外にいた場合

路上や街中にいる場合

- ブロック塀や自動販売機の転倒に注意し、看板や割れたガラスの落下にも注意する。ビルなどの建物から離れ、持ち物や両手で頭を守り、近くの公園や広い場所に避難する。

自動車を運転中は

- 大きな揺れを感じたら、あわててスピードを落とさず、ハザードランプを点灯させて、周りの車にも注意を促す。急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落として道路の左側に停止する。

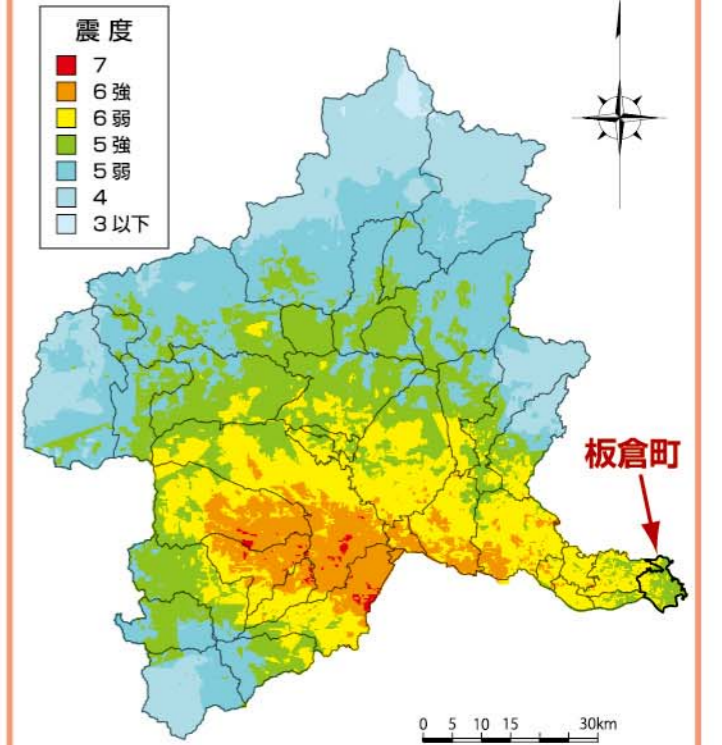
鉄道やバスに乗車中は

- つり革や手すりをしっかりつかまります。乗務員などの指示に従って落ちついて行動します。

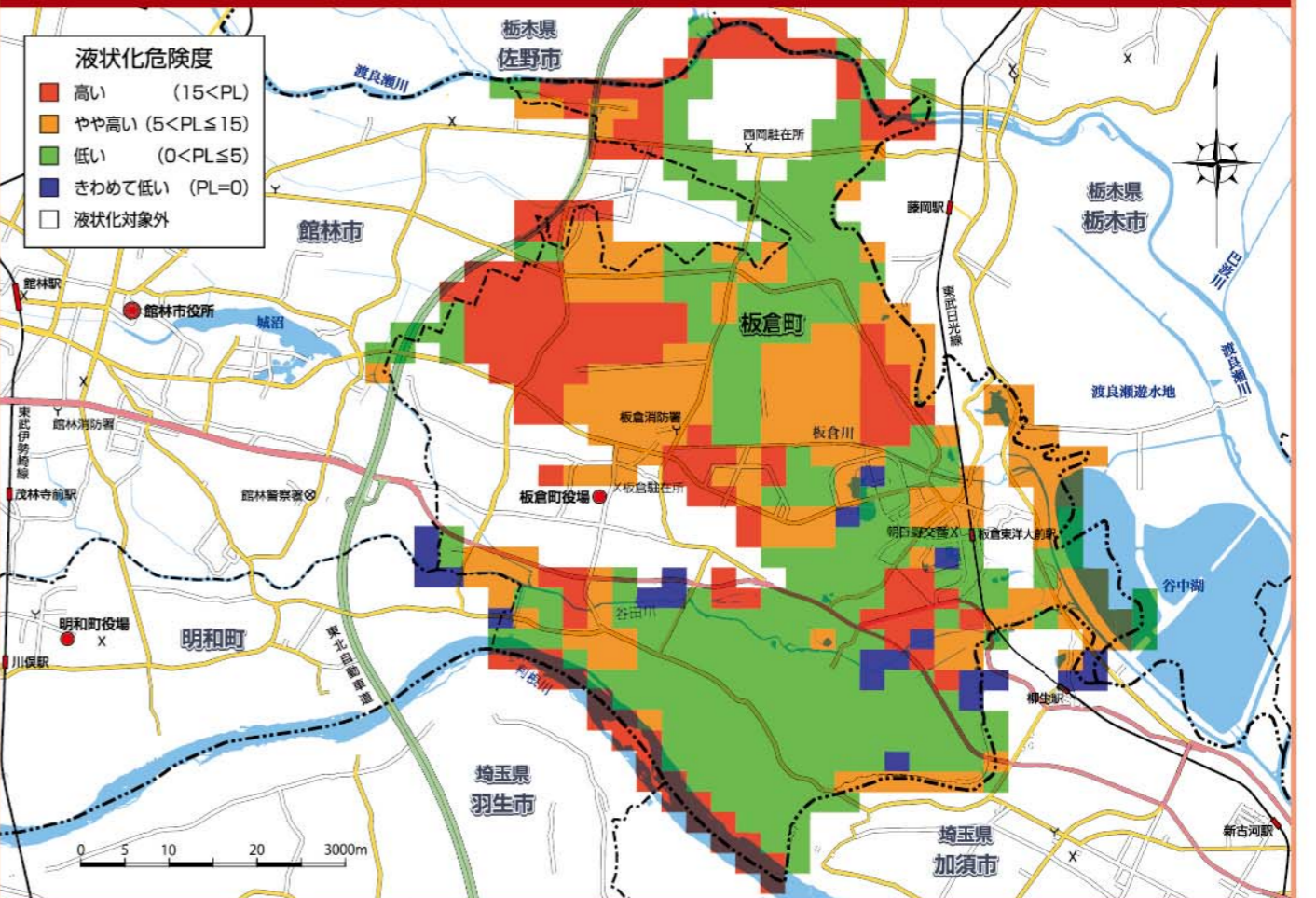
想定断層の地表位置図



関東平野北西縁断層帯主部による地震(M8.1)の場合の地表震度分布図



関東平野北西縁断層帯主部による地震(M8.1)における液状化危険度



地域での防災対策

自主防災組織とは

町や消防機関、警察機関は、総力を挙げて防災活動・復旧活動を行います。大地震や洪水が発生した場合、さまざまな悪条件が重なり、防災関係機関の活動能力は著しく低下することが予想されます。このような大規模災害が発生したとき、被害をできるだけ少なくするためには、住民の自主的な防災活動により被害の防止または軽減を図ることが重要です。災害に対して地域住民一人ひとりが、組織的に行動し、自分たちの地域は自分たちで守るという意識を持って行う共助の活動が自主防災組織です。

自主防災組織とは、行政区単位で結成され、地域の皆さんが連携して自主的に防災活動を行う団体のことをいいます。災害による被害を最小限におさえるためには、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方が重要となります。

平常時

災害に備えるために、日頃から地域の皆さんに、防災知識・防災活動の必要性を理解してもらう活動を行います。

① 防災知識の普及と啓発

地域住民に防災知識を広め、関心を持ってもらいます。

② 地域内の安全点検

地域内の危険箇所や問題点を確認し改善します。

③ 防災訓練

災害に備え、消防署などの指導のもと訓練を行います。

災害時

人命を守り被害の拡大を防ぐために、地域の皆さんが協力して、火災の初期消火や負傷者等の救出・救護などを行います。

- ① 初期消火……… 消防機関と協力し、初期消火活動を行います。
- ② 救出・救助……… 負傷者などの救出・救助や、応急手当てを行います。
- ③ 情報の収集と伝達……… 防災関係機関と連絡を取り、情報を住民に伝達します。
- ④ 避難誘導……… 避難経路の安全を確認し、住民を避難所へ誘導します。
- ⑤ 避難所の管理と運営……… 避難所での食糧物資の調達と配分、給水活動を行います。

避難行動要支援者への協力

要配慮者（高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児・傷病者・日本語が不自由な外国人等）のうち、特に災害時の避難に支援を要する場合は、避難行動や言葉の理解などで大きなハンデを負うことになります。地域の皆さんは日頃からコミュニケーションをとりあって、災害時には相手に適した誘導方法で早めの避難ができるように協力しましょう。

当事者が備えるべき最低限のこと

- ・最低3日分の薬や処方せんのコピーを用意しておく。
- ・非常用持出品をすぐに持ち出せるよう近くに置いておく。
- ・自身の情報、支援者の連絡先やどういった支援が必要か記載したものを用意しておく。
(例：ヘルプカード、ヘルプマーク)

当事者の状況によって、対応も様々です。以下の点に注意して災害に備えましょう。

	当事者(家族)の備え	支援するときの配慮
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の安全確保 ・助けを呼ぶ笛の常備 ・車いすの点検及び車いすが使えない時の備え(杖、担架、おんぶ紐等の用意) 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉器具、非常用持出品の運搬 ・車いす等での移動の介助 ・介助方法を具体的に尋ね、「はい」「いいえ」で答えられる質問にする。
視覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> ・家具の配置を常に一定にし、安全な空間を確保 ・避難経路の事前確認 ・非常用持出品(白杖、点字版、携帯ラジオは必須)の用意 ・盲導犬を連れている場合は、ドッグフードを多めに用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・杖を持っていない側、盲導犬と反対側に立ち、肘の上をつかんでもらい、歩く速さを合わせる。 ・進行方向の状態をわかりやすく説明する。 ・盲導犬に声をかけたり、触れたりしない。



	当事者(家族)の備え	支援するときの配慮
聴覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時にはメモで情報を伝えて欲しいと伝えておく。 ・筆記用具、メモ用紙、ホワイトボードなどを用意しておく。 ・あらかじめ「メッセージカード」を用意しておく。 ・非常用持出品(笛、補聴器用電池)の用意 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイレンも防災ラジオも聞こえないため、手話、筆談、口の動きなどで情報を伝える。 ・声が聞こえる場合は、はっきりと口を開けて、端的な内容でゆっくり話す。
傷病者	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけの医療機関に災害時の対応について相談しておく。 ・薬や医療機材の確保 ・人工透析のかたは、受け入れ可能な医療機関の確保 ・病気についての手帳を詳細に記入しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話はペースメーカー等の医療機器に誤作動を生じさせる可能性があるため、適切な距離を保つ(20cm以上)。 ・本人や家族の依頼があれば、医療機関などへの連絡代行や、状況により処置の手伝いを行う。
知的障がい	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や仲間とはぐれた場合について、前もって家族で話し合いをしておく。 ・支援が必要なことを書いた「ヘルプカード」等の携行を心がける。 ・避難所等での過ごし方を絵や短い文に書いて本人と一緒に確かめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安になるような言葉を避け、「大丈夫だよ」等安心させる言葉かけを行う。 ・ケガや痛みがあっても伝えられない可能性があるため、よく確認する。 ・身の回り品や食べ物等への強いこだわりなどがあるため、理解しながら支援する。
精神障がい	<ul style="list-style-type: none"> ・健康保険証、おくすり手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療受給者証(精神通院)を準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な態度での声かけをする。 ・妄想や幻想のような話の場合でも、強く否定せず受容的な態度で向き合う。 ・薬の飲み忘れがないか見守る。
高齢者・認知症のあるかた	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から地域とのコミュニケーションを取り、地域に理解してもらう。 ・認知症の場合、災害時にはストレスで症状が悪化する場合があるため、かかりつけ医と相談しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な説明などは、理解が難しい場合があるので、単純な言葉で情報を伝える。 ・ペースを理解し、無理のない移動に配慮する。
妊婦・子どものいるかた	<ul style="list-style-type: none"> ・寝室やお昼寝の場所は、落下物や倒れてくる家具がないところにする。 ・物が散乱した時に備えて、寝室に靴を用意しておく。 ・避難施設を事前に確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者もほかの避難者に迷惑をかけないように緊張状態が続くため、周りの人たちが子どもの相手になるなど配慮する。 ・授乳や着替え、オムツ替えスペースを作る。 ・女性用品は人目に付かないところで配布。オムツや衣類などはサイズ別に配置。
外国人	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から近所の人にあいさつをして、顔見知りになっておく。 ・パスポートや大事なものを持ち出せるように用意しておく。 ・災害で家財や車を失った時のために保険に入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難施設を知らないかたが多くいるため、声かけを行う。 ・簡単な言葉やジェスチャーを使い危険であることを伝える。 ・翻訳アプリを使ってコミュニケーションが取れることもあります。 ・ひらがなやカタカナで書いて、分かりやすい表現を心がける。 ・宗教によって食生活の違いや風習があるため配慮する。



避難時の心得

避難の基本的な考え方

(自らの命は自ら守る)

危険が迫る前に早めに避難

雨や風が強いときに外出することは大変危険なため、危険が迫る前に早めの対策をすることが何よりも重要です。自ら積極的に気象情報などを入手することで迫りくる危険を予測して、早めの避難を心がけましょう。既に浸水の危険性がある場合には、速やかに頑強な建物の2階以上、またはお近くの浸水しない地域に避難してください。

自宅に留まることも避難の一つ

既に河川が氾濫している場合などは、屋外を移動して避難所などへ避難する途中で被災することも考えられるため、自宅などの屋内に留まったり、建物の上階へ移動したりするほうが安全な場合もあります。

避難するときの注意点

正確な情報収集と自主的避難を

テレビ・ラジオで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



避難する前に

避難する前に、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を止めておきましょう。また、避難所・避難場所の経路を確認し、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。



車での避難は控えて

車は道路が冠水すると動けなくなります。原則、徒歩で避難しましょう。やむをえず車を使用するときは、早い段階で、避難を始めてください。



速やかに避難しましょう

避難勧告・避難指示などは、危険が迫ったときに出されますので、町や関係機関から呼びかけがあった場合には、速やかに避難しましょう。また、避難の際には消防、警察などの指示に従いましょう。



徒歩での避難 水面下に注意

水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖代わりにして、側溝の場所や安全を確認しながら歩きましょう。大雨により、マンホールふたが外れることがあります。危険ですから近寄らないでください。



動きやすい服装 2人以上での避難

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。サンダルなどは禁物です。動きやすい運動靴をはきましょう。



持ち出す荷物は必要最低限に

避難するときの荷物は必要最低限とし、特に妊産婦や乳幼児がいる家庭は必要なものをよく確認して、事前に準備しておきましょう。



歩ける深さ

歩ける深さは、膝下までです。水深があるようなら高いところで救助を待ちましょう。



万一、逃げ遅れたら

近くの丈夫な建物の2階以上に避難して救助を待ちましょう。住宅の2階部分でも場所によっては危ないときもあります。



避難生活・伝言ダイヤル・家族の連絡先

避難生活

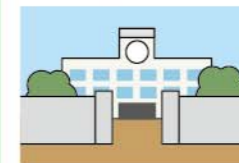
大規模な災害が発生した場合、自宅または町が開設する避難所で避難生活を送ることになります。

在宅避難



発災後など自宅で住み続けることが可能な場合、自宅で生活を送ることが基本となります。平常時に備蓄していた食料、飲料水、携帯トイレ等で生活を送ります。

避難所への避難



自宅を離れて避難所で生活する事は、慣れない避難生活となることからストレスや過労などにより体調を崩してしまうことも考えられます。少しでも負担を減らすため避難所では決められたルールを守り、避難生活者同士で協力して支え合うことが大切です。

役割分担して運営に参加しましょう

- 避難者もできる範囲で、受付や清掃、炊き出し、物資の配布など役割分担をしましょう。
- 助け合いながら避難所運営に参加しましょう。



高齢のかたや障がいをお持ちのかた

- 避難する場所を事前に確認して、まわりの人に災害時に避難の協力をしていただけるようコミュニケーションをとっておきましょう。



健康や衛生の管理に気をつけましょう

- エコノミークラス症候群を予防するために、適度な運動と水分補給をしましょう。
- かぜやインフルエンザを予防するため、手洗い・うがいをしましょう。換気、マスク、十分な睡眠をとることも大切です。
- 熱中症予防のため、水分補給、室温調整、衣服の工夫をしましょう。
- 食中毒予防のため、手洗い、消毒、賞味・消費期限の確認をしましょう。
- トイレや浴室などの衛生を保ちましょう。



ペットのしつけと備蓄品の確保

- 避難所では、人とペットは別の場所で生活し、ペットの世話は飼い主が自ら行うことが原則です。
- ペットとの同行避難に備えて、日頃からケージに入ることや首輪等にならしておくこと、決められた場所での排泄、犬の場合は「待て・おいで」、むやみに吠えない等、ペットのしつけをしておきましょう。
- 避難先においてペットの飼育に必要なものは、基本的に飼い主が用意する必要がありますので、ペットのための食料や飼育用具などを準備しておきましょう。



災害用伝言ダイヤル

固定電話、携帯電話、スマホから

災害用伝言ダイヤル **171**

PC・スマホのインターネットから

災害用伝言板 (Web171)

携帯電話から

災害用伝言板 災害時は各社公式サイトトップ画面に案内が表示されます。

わが家の防災メモ

家族が外出先で避難が必要になったら

名前	連絡先
<input type="checkbox"/> 就業先、就学先、外出先から避難する (避難先)	<input type="checkbox"/> 就業先、就学先、外出先にとどまる (自宅に帰ってくる)
名前	連絡先
<input type="checkbox"/> 就業先、就学先、外出先から避難する (避難先)	<input type="checkbox"/> 就業先、就学先、外出先にとどまる (自宅に帰ってくる)
名前	連絡先
<input type="checkbox"/> 就業先、就学先、外出先から避難する (避難先)	<input type="checkbox"/> 就業先、就学先、外出先にとどまる (自宅に帰ってくる)
名前	連絡先
<input type="checkbox"/> 就業先、就学先、外出先から避難する (避難先)	<input type="checkbox"/> 就業先、就学先、外出先にとどまる (自宅に帰ってくる)

非常時持出品の準備&チェック

大規模災害時に被災地まで救援物資が届くには、おおむね3日かかるといわれています。非常時持出品は必要最低限なものにして、リュックサックなどにまとめ、すぐ持ち出せる場所に保管しておきましょう。食品類の賞味・消費期限の確認や持出用品の不備を定期的の確認しましょう。

非常時持出品(例)

※ 事前に準備できているか、チェック しましょう。

飲料水		万能アウトドアナイフ		乳幼児のいる家庭	
非常食		レインコート		ほ乳びん・スプーン	
レトルト食品		布ガムテープ		粉ミルク(ベビーフード)	
インスタント食品		医療品		紙おむつ・おしりふき	
缶詰(缶切り不要タイプ)		救急医薬品セット		抱っこひも	
生活用品・衛生用品		持病のある人の常備薬		母子手帳	
防災ラジオ		お薬手帳		高齢者のいる家庭	
懐中電灯(できれば一人にひとつ)		貴重品		予備のメガネ	
予備の電池(多めに用意)		通帳・印鑑		予備の入れ歯	
毛布・寝袋		現金(10円硬貨も含む)		障がい者のいる家庭	
ロープ	免許証	障がい者手帳			
非常用簡易トイレ	健康保険証(コピー可)	予備の補助用具			
トイレレットペーパー	権利証書	その他			
ウェットティッシュ	衣類	携帯電話			
ドライシャンプー(水のいらない)	下着・靴下	携帯電話(バッテリー充電器)			
生理用品	上着	筆記用具			
使い捨てカイロ	軍手(厚手の手袋)				
タオル	ヘルメット				
マスク・体温計・消毒液					

非常時用備蓄品(例)

※ 災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるように、チェック しましょう。

飲料水 生活用水	飲料水は1人あたり1日3リットルを目安に備蓄しましょう。炊事・洗濯・トイレなどに使う生活用水を確保のために、風呂の水は抜かずにおき、就寝前には、ポット・やかんに水を入れておくようにしましょう。	生活用品 その他	カセットコンロ・予備のボンベ	
食料品	救援物資が届くまでの間、自給自足ができるように、1人3日分以上の非常食を確保しておきましょう。		ロウソク・ライター・固形燃料	
			ラップフィルム	
			簡易食器類	
			ホイッスル	
			ビニールシート	
			給水用のポリタンク	
生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)				
毛布・寝袋・洗面用具など				

防災・医療機関

名称	電話番号	名称	電話番号
板倉町役場	0276-82-1111	増田医院	0276-82-2255
警察	110	井上整形外科医院	0276-82-1131
		いたくら内科クリニック	0276-70-4080
消防	119	板倉耳鼻咽喉科クリニック	0276-80-4333
		ふじの木整形・内科クリニック	0276-91-4070
公立館林厚生病院	0276-72-3140	板倉医院	0276-77-1877

企画・編集：板倉町

発行：令和2年6月